

尾張自然観察会通信

2024年7号

発行7月1日



ヨツモンカメノコハムシ (ハムシ科)

体長が1cm近くあり、カメノコハムシと呼ばれる扁平な形状のハムシの仲間では最大級のものです。

サツマイモの害虫として知られていますが、ヒルガオ、外来アサガオなどの葉も食べます。

かつては沖縄以南の分布でしたが、1990年に九州で、2008年に本州（静岡県）で初確認されています。その後も分布地域を拡大しており、今では尾張地域でもよく見かけます。

====目 次====

当面の行事案内	1
定例観察会報告	2
善師野自然観察会（5月）	2
尾張北部自然観察会（6月）	3
森林公園自然観察会（6月）	4
木曾川下流自然観察会（6月）	5
海上の森自然観察会（6月）	6
日進岩藤川自然観察会（6月）	7
知っておきたい尾張の自然・風景	
東海自然歩道	8

当 面 の 行 事 案 内

■定例観察会

日付	場所	催行時間	集合場所	担当	連絡先
7/6（土）	明德公園	9:30~12:00	明德公園西駐車場入り口表示板	辻	080-3073-6827
7/6（土）	尾張北部	9:30~14:00	さら・さくら第2駐車場	木村	080-3642-8304
7/7（日）	森林公園	9:30~12:00	森林公園案内所	出口	080-4309-2701
7/14（日）	木曾川下流	9:30~12:00	138タワー玄関前	齋竹	0587-37-7616
7/20（土）	海上の森	10:00~15:00	海上の森駐車場	内海	090-9912-3686
7/21（日）	日進岩藤川	9:30~12:30	日進市総合運動公園の駐車場	鬼頭	0561-38-2792
7/26（土）	善師野	9:30~15:00	善師野駅前（農道駐車不可）	平井	052-504-5223
8/3（土）	明德公園	9:30~12:00	明德公園西駐車場入り口表示板	辻	080-3073-6827
8/3（土）	尾張北部	9:30~14:00	さら・さくら第2駐車場	木村	080-3642-8304
8/4（日）	森林公園	9:30~12:00	森林公園案内所	出口	080-4309-2701

通信に掲載したい事項やメールアドレス変更などがありましたら、下記担当者までお知らせください。

<編集担当> 齋竹善行

住所：〒482-0007 岩倉市大山寺元町12-3 メールアドレス：BZA03620@nifty.ne.jp

定例観察会報告

第339回 From 善師野 2024. 5. 25 (土) 晴 指導員5名 一般8名

5月の善師野は昆虫の王国が始まります。この時期に出会えると飛び上がるほどうれしいのは、主にブナ科の新芽を食べて育つゼフィルスと呼ばれるシジミチョウです。里山では多くのゼフィルスが人と共存しています。年によって出会えない時もありますが、今年は大洞池周辺でアカシジミ、ウラナミアカシジミが見られました。びっくりした出会いは、二次寄生というとんでもない生活様式のキスジセアカカギバラハバチに出会ったことです。葉にたくさんの卵を産み付け、卵は葉を食べに来た幼虫の体内に取り込まれ、ふ化したハチの幼虫はその幼虫を食べながら成長して蛹になり羽化する。普通はそうなるはずですが、この寄生バチは卵を取り込んだ幼虫がハエやハチに寄生されることが必要で、卵を取り込んだ幼虫ではなく、寄生された幼虫を食べるといってもなくめんどろな方法で繁殖するのです。昆虫の世界は広くて奥が深い！ (平井)

		
まもなく田植え	ラミーの葉をかじるラミー	美しい蛾キスジホソマダラ
		
卵の花におう？	名のとおりウラギン	クララにルリシジミ
		
アカシジミ見つけ！	2か所で見られたウラナミ	ミントなヒロバツバメアオシャク

尾張北部自然観察会

2024年6月1日(土) 晴れ

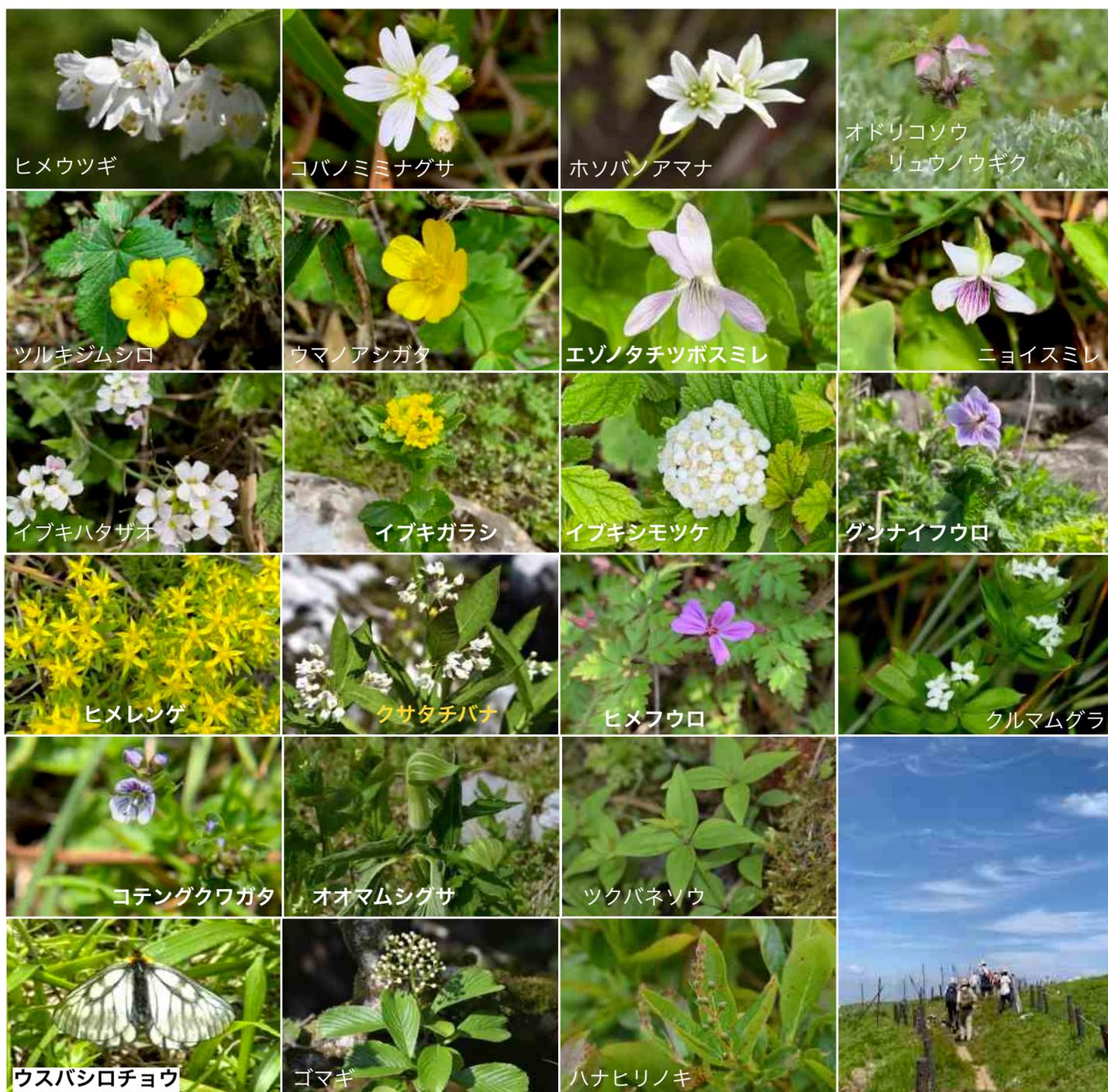
参加者 指導員(木村、太田、山田、後藤)4名 一般10名 計14名

伊吹山ドライブウェイでは白いヒメウツギ、桃色のタニウツギが目立ち、9合目近くのイヌワシ撮影ポイント
は観察者で賑わっていました。まず静馬ヶ原へ下ると斜面にザゼンソウが点在し、イワニガナ、ミミナグサ、
ヒメレンゲ等の小さな花が石灰岩地に張り付いています。北尾根を眺めカッコウ、ジュウイチの声を聴きながら
の昼食後、西登山道ではクサタチバナが咲き始めていました。伊吹の名を冠したイブキハタザオ、イブキガラ
シ、イブキシモツケやグンナイフウロ、ホソバナアマナ、オドリコソウ等を見ながら上ると、頂上付近は一面
コバノミミナグサが咲いていました。東登山道の途中では遠方で5頭のシカが悠然と草を食べているのに出くわ
し驚きました。オオイタヤメイゲツの葉、タンナサワフタギに付くシロシタホタルガの幼虫を観察し、これから
咲くマルバダケブキやバイケイソウの群落を見ながら下り、伊吹山の豊かな植生を堪能しました。

[その他観察したもの]

草本：キバナハタザオ、ハクサンハタザオ、タチツボスミレ、ノミノツヅリ、アカソ、イブキタンポポ、
コイブキアザミ(蕾)、ヒヨクソウ(葉)、イブキジャコウソウ(葉)、キバナカワラマツバ(葉)等

木本：カマツカ、マユミ、ハナヒリノキ、ミヤマイボタ、ウリハダカエデ、マメグミ等 (山田、後藤)





木曽川下流自然観察会

<http://owari.eco.coocan.jp/kisogawa.html>

日時 2024年6月9日(日) 9:30~12:00 (曇/小雨)

参加者 一般：4名

指導員：太田、安田、渡辺、齋竹

テーマ 初夏の昆虫

6月ともなるといろいろな虫が出現してきますので、今回のテーマは昆虫です。

前日の下見ではコオニヤンマや近年増えているムラサキツバメが見られ、この日も出るかと期待していたのですが、朝のうち想定外の雨が降り、気温が上がらなかったためか昆虫はあまり飛ばず、ベニシジミ、ツバメシジミ、ルリシジミ、シオカラトンボ、マルカメムシなど限られた種類のものが見られただけでした。ちょっとした気象条件の違いで昆虫の行動はすいぶんと変化するものなのですね。

今回、テーマの「昆虫」とは別にもう一つ企画したのはスマホを使った動植物の写真の登録です。愛知県が進めている「みんなで調べよう！ あいちの生物多様性」は対象となる動植物(モニタリングハンドブックに掲載された動物50種、植物50種)の写真を撮って、データを登録して共有するものです。

この日はスマホで写真を撮って、その場でNetに登録する方法を学ぶということで、尾張西部生態系ネットワーク協議会の企業会員のエスバックミックのスタッフがハンドブックと登録方法の説明資料を持ってスマホ操作の指導に来てくれました。私はこれまでデジカメで撮ってパソコンから登録していたので、よい経験ができました。

最初に集合地点の138タワー玄関前でニホンタンポポの写真を撮り、参加者各人が登録に挑戦しましたが、スマホの種類や機種で設定や操作が異なるため、意外と苦労しました。その後は、途中で見られた秋の七草のクズやキキョウ、監視したい外来植物のオオカワヂシャなどについてもそれぞれで登録していました。

なお、途中でウグイスやオオヨシキリの鳴声が聞かれ、これも動画を撮って登録する対象なのですが、今回、動画の登録はスルーしました。

今日参加した人が、これから家の近くで対象となる動植物を見かけた時に、スマホで撮影して登録してくれることを期待したいと思います。(報告：齋竹)



(タンポポの画像をスマホで登録しているところ)

<その他観察できたもの>

昆虫：外来アミガサハコロモ(幼体)、ショウリョウバッタ(幼体)

野鳥：ツバメ、トビ、キジバト、ヒヨドリ、カワラヒワ、ハクセキレイ、シジュウカラ、ホオジロ、ムクドリ、スズメ、ハシブトガラス、ハシボソガラス、キビタキ(声)

花：ボタン、ヒメボタン、ノアザミ、ヒメジョオン、コウソリナ、カワラサイコ、イヌコモチナデシコ、コマツヨイグサ、タイサンボク、ハンゲショウ、ホタルブクロ

実：ヤマモモ、マグワ、フトイ、ホソイ、クサイ、タマガヤツリ、メリケンガヤツリ



特定外来種のオオカワヂシャ



早くも秋の七草のキキョウ



	
クスサン ヤママユガ科	ヤママユ ヤママユガ科
	
イボタガ イボタガ科	オオムラサキ タテハチョウ科
	
キマダラセセリ セセリチョウ科	ショウジョウトンボ トンボ科
	
エゴツルクピオトシブミ オトシブミ科	タカサゴキララマダニ 節足動物

マダニは足8本なので、昆虫以外です。以前に一度刺され無理やりとったら顎の一部が残ってしまい、皮膚科に行きました。暫く様子を見るようにとのこと「無事」でした。(内海)



岩藤新池の堤防からの眺めです。夏の雲と雑木林、竹林、放棄水田の向こうに運動公園の野球場の照明塔が見えます。いつもの観察路に行く班と水辺の生きものを探す班に分かれて歩きました。キリギリスはまだ聞こえてきませんでした。農道に差しかかるとキンヒバリの声がありました。ああ、蝉の声ももうすぐだなあ、早ければ来週ぐらいから聞こえるよかも知れない、と思います。(鬼頭)

ネムノキ



夏の到来を感じる花で蕾がたくさんありましたが見た目には満開です。膨らみかけた蕾は赤く、雄しべの先の黄色い葯が顔をのぞかせていました。どのような収まり方をしているか気になります。



蛾の色彩



はじめに緑の蛾、次に赤い蛾、最後に黄色い蛾に出会い三色そろい踏みでした。三種とも

小さめの蛾です。緑はナミスジコアオシヤク、赤はトビイロシマメイガ、黄色はベニモンアオリンガ。ベニモンは前翅に赤い紋がないタイプです。

ゴミグモと卵のう



春浅いうちから活動しているゴミグモがコグモが孵化するのを見守っていました、卵のうは2つ。集

合場所ではオオヒメグモの団居が見られました。



ヒメナガカメムシ

体長3センチくらい。道端で満開のヒメジョオンに群がっていました。羽化した成虫もメジョンの花で交尾しているのをよく見かけます。



ヤハズハエトリ (下はオス)

捕らえたのはショウリョウバッタの幼虫で、頭の方から忍び寄って毒液を注入して麻痺させた後、消化液を出して溶かしてものを吸い込みます。(体外消化)



知っておきたい尾張の自然・風景

東海自然歩道

東海自然歩道は、東京の高尾国定公園から大阪の箕面国定公園まで、自然や歴史文化財に接しながらハイキングが楽しめるように整備された道で、太平洋側の11都府県を通り、延長は1,748kmに及んでいます。

厚生省が1969年に構想を発表し、翌年から沿線自治体と連携(国が補助金を交付)して整備が始まりました(その後、所管は環境庁、環境省へと移管)。北海道から九州まで10本ある長距離自然歩道のうちで東海自然歩道が最初に整備されました。

愛知県内は静岡県境の新城市の鳶ノ巣山から岐阜県境の犬山市ライン大橋までが本線で、豊田市の寧比曾岳で恵那コースが分岐し、この恵那コースは犬山市の善師野(石捨峠)で本線に合流しています。

この整備にあわせて、コース沿いに愛知高原国定公園が新たに指定され、天竜奥三河国定公園と飛騨木曾川国定公園の区域が拡張されました。

尾張部の本線は、猿投山から雲興寺、岩屋堂、定光寺、道樹山、内津峠、奥入鹿・八曾、今井、善師野、寂光院を経てライン大橋で岐阜県に入ります。尾張自然観察会の定例観察会で歩く区間もあり、東海自然歩道の案内標識を目にすることも多いかと思えます。

整備された当初は人気が高く、賑わったようですが(全コース踏破のつわものもみえました。)、その後、各地に長距離自然歩道ができたことやレクリエーションの多様化などのためか利用者の減少が指摘されるようになりました。そこで、利用促進のため、「全国一斉に自然歩道を歩こう大会」や「全国・自然歩道を歩こう月間」などが取り組まれたこともありますが、いつのまにか消滅しています。

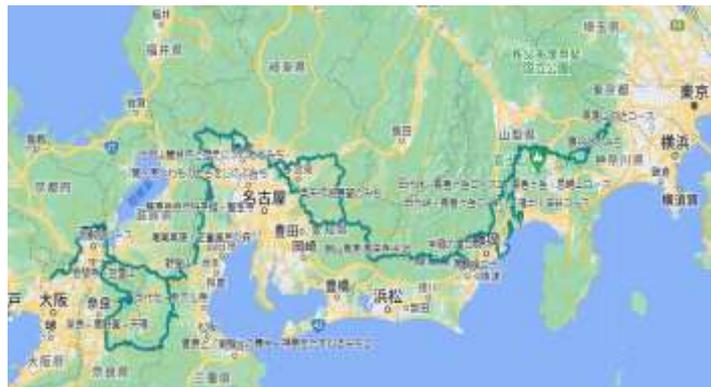
ただ、ハイキングで多く利用されている区間もあるようですし、自然観察に適したスポットもありますので、有効に利用したいものです。(齋竹)



(東海自然歩道の標識)



(善師野の大洞池もコース)



東海自然歩道の全体のコース図



東海自然歩道の尾張部のコース図



(コースには観光名所も)